



脳機能障害と気づき

保健福祉学部 理学療法学科
助教 高宮 尚美 (たかみや なおみ)

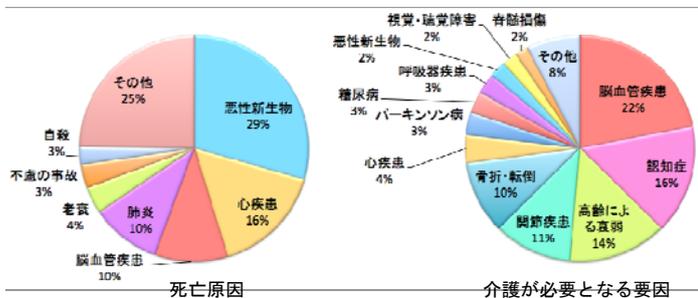
連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 2320 号室
Tel 0848-60-1225 Fax 0848-60-1225
E-mail takamiya@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 神経障害理学療法学 神経生理学

キーワード： 脳血管障害 半側空間無視 気づき 事象関連電位 リハビリテーション

● 現在の研究について

日本人の平均寿命は年々延び、名実共に世界有数の長寿国と言われています。以前は、死亡要因として考えられていた脳血管疾患ですが、保健・医療・福祉の発展に伴って、現在では死因の約1割に留まっています。一方で、介護が必要となる要因の割合は、脳血管疾患は全体の22%を占め、これは介護の要因1位という状況です。



(厚生労働省発表「H22 国民生活基礎調査の概況」より作成)

脳血管疾患を発症すると、運動麻痺や感覚障害とともに、なかには高次脳機能障害を有することがあります。高次脳機能障害とは、記憶や注意、遂行機能、社会的行動などの認知機能における障害で、このうち右脳半球の障害によって生じる高次脳機能障害に「半側空間無視」という病態があります。

半側空間無視は、主に左の空間や身体に対する刺激を無視するため、日常生活活動の自立や社会復帰を強く阻害します。現在その機序は注意障害に基づき説明され、リハビリテーションも注意障害を改善させる方略が主体となっていますが、治

療には難渋することが多く、有効な治療法も未だ確立されていません。

また、近年では半側空間無視には注意障害のみならず、「気づき」の障害が関連するともいわれています。しかし、「気づき」に基づくヒトの認知機能の詳細な部分は明らかにされておらず、分かっていないことが多いというのが現状です。

そこで、健常成人を対象として、脳波によって計測される事象関連電位を用い、視覚的気づきの神経基盤を解明する研究を行っています。

● 今後進めていきたい研究について

「気づき」に關与するヒトの脳活動を明らかにするとともに、脳の機能的左右差を神経生理学的に解明する実験を検討しています。こうした、基礎的なヒトの脳神経基盤を明確化することで、半側空間無視の病態に悩まされている脳血管疾患患者だけでなく、そのほかの脳血管疾患患者に対しても、効果的なリハビリテーション治療や、病態の評価方法を見いだす一助を担いたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

医療・介護・福祉団体、および病院・施設と連携して、実際の脳血管障害者やそういった対象者と臨床で直に接し、リハビリテーション治療に励んでいらっしゃる療法士の先生の声聞きながら、共同で研究し、その結果について検討できればと思います。

● これまでの連携実績

現在行っている研究は、九州大学大学院医学研究院脳神経病研究施設臨床神経生理学教室において飛松省三教授にご指導頂き、また他教室員の皆様にご協力頂きながら実施しています。